

備前市施策評価シート

(平成18年度事業)

施策名 (小項目)	交通安全	コード	作成者	役職	市民課長
		01-04-01	氏名	野上 茂之	
			電話	64-1818	

備前市総合計画の内容から記載する

施策の体系	大項目(基本目標)	安全で快適に暮らせるまちづくり
	中項目(基本施策)	安全で安心して暮らせるまちづくり
施策の対象と目的 (誰のために、何のために)	道路通行者の交通事故防止	
現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	全国的に交通事故死者数は減少傾向にありますが、事故発生件数は依然として増加傾向にあります。特に、高齢社会が急速に進む中で、全交通事故死傷者に占める高齢者の割合が年々高くなっています。このような中で、市民一人ひとりが交通ルールを遵守し、交通マナーを向上させることが必要であり、今後とも、家庭、学校、職場、地域などで、幼児から高齢者まで幅広い交通安全教育を推進し、交通安全意識の高揚を図る必要があります。	
施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全意識の高揚 交通安全教育の実施 交通安全施設の整備 	

施策構成事務事業の評価

担当課長評価

施策を構成する事務事業名	事務事業 評価結果 A~E (高~低)	細事業一覧表	事業 分類	事業費(単位:千円)						優先順位 その他
				H17		H18		H19		
				直接 事業費	人件費	直接 事業費	人件費	直接 事業費	人件費	
1 交通安全啓発事業	B	交通安全啓発事務	ソフト事業	242		394				
		交通安全運動実施事業	ソフト事業	390	7,539	146	7,603			
		交通安全教室開設事業	ソフト事業	75		121				
		交通安全用品設置事業	ソフト事業	155		73				
2 交通安全団体支援事業	B	市交通安全対策協議会補助金	ソフト事業	330		200				
		県交通安全母の会負担金	ソフト事業	19		19				
		市交通安全母の会負担金	ソフト事業	145	2,867	120	3,673			
		備前交通安全協会助成金	ソフト事業	859		0				H18廃止
		都市交通安全対策協議会事務	ソフト事業	0		0				
3 交通傷害保険事務	C	交通傷害保険事務	ソフト事業	212	2,635	203	2,988			H19廃止
4 交通安全施設整備事務	B	警察要望書提出事務	ソフト事業	0	2,330	0	1,088			
5 交通安全施設整備事業	C	交通安全施設整備事業	ハード事業	10,295	6,289	8,223	3,146			
6 交通安全施設維持管理事業	B	交通安全施設維持管理事業	維持管理	1,115	3,466	1,103	4,385			

この施策に要した費用(人件費込、単位:千円)	H17	H18	H19
	38,963	33,485	

以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	その説明
公安委員会	信号等の規制に関する施設整備	

施策の評価

項目	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い			
	一次評価		二次評価	
	評価	判断理由	評価	判断理由
1 目的達成度	3	交通事故発生件数は微増	2	関係機関の努力にもかかわらず、事故は減少していない。
2 事業構成の適当性	3	支援の見直しが必要(交通傷害保険事務は18年度で廃止)	3	一部事業の廃止はあるが、現行の事業構成は妥当である。
3 施策の有効性	3	妥当と考えており、継続して実施する。	3	支援団体の活動が有効に機能しているのかどうか検証する必要がある。
今後の展開・協働の可能性・事業の見直し等の担当への指示	市民総参加で交通安全への取り組みが必要である。(特に、幼児と高齢者に重点を)		今後は、交通事故要因別に的を絞った(高齢者の夜間交通事故防止等)啓発を行う必要がある。	
二次評価者コメント 役職 市民環境部長 氏名 細見 峰一	交通マナーの低さも憂うべき事であるが、今後は総体的なマナー遵守の機運を醸成する必要がある。			平成20年度 予算の方向性 減配分

市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H19	H20	H21
重要度(%)			
満足度(%)			

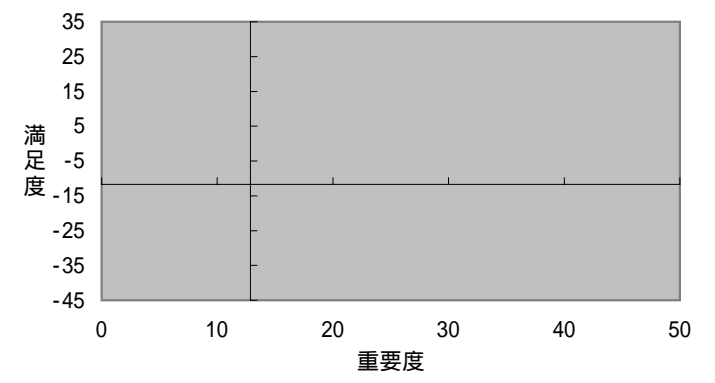
<見直し領域>
その施策や事業が必要か否かの検討が必要

<維持領域>
現状の方向を継続

<検討領域>
その施策や事業の存続の検討が必要

<強化領域>
内容等を見直し、市民満足度を高める事業を行う

重要性 ← 低 → 高



調査結果に対するコメント、市民の反応等
 調査対象でない施策の場合は、市民の反応等
 市民の交通安全に対する意識は年々高まっており、要望事項等も様々なものとなっているので、今後とも有効な施策を展開することが必要である。

施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	評価年度			目標値		ベンチマーク	指標の説明
		H17	H18	H19	H23	H28		
1 交通事故発生件数(人身)	目標	件	250.0	250.0		230.0	200.0	交通事故発生件数(交通年鑑)
	実績	件	261.0	275.0				
	達成率	%	104.4	110.0				
2 市民による事故発生件数(第1当事者)	目標	件	75.0	75.0		70.0	50.0	交通事故1万人当たり換算(交通年鑑)
	実績	件	79.8	74.9				
	達成率	%	106.4	99.9				
3 高齢者の交通事故被害件数	目標	件	60.0	60.0		50.0	40.0	65歳以上(資料~警察署より)
	実績	件	57.0	66.0				
	達成率	%	95.0	110.0				
4 交通マナーが守られている	目標	%		100.0		100.0	100.0	市民意識調査
	実績	%		21.1				
	達成率	%		21.1				